

愛川町立愛川東中学校

研究テーマ：東中「未来の学校」ビジョン

1 実践の目的

本校では、学校教育目標である「ともに学びともに輝く学校～自分も仲間も大切にしよう～」の達成に向けて、東中「未来の学校」ビジョンをテーマに校内研究を行ってきた。また、その中でも今年度は「対話的な学び」に力を入れて取り組むことで、全員が参加できて、互いを認め合う授業づくりに励んできた。

学校生活の中で一番多くの時間を占める「授業」で対話を通して認め合い、高め合うことができれば、生徒が輝くことはもちろん、その姿を通して教員も輝くことができると考え、研究を進めてきた。

2 実践の内容

年に2回の研究授業の機会を設けて、その都度、指導案検討→プレ授業の実施→(フィードバックを経て)本授業の実施→全体研究会→事後指導という形で授業への研究を進めてきた。事後指導については、玉川大学客員教授の笠原先生をお招きし、全体での指導助言、個別での指導助言ともに実施し、学びを深めることができた。

【第1回】

いずれも3年生で英語・社会・理科の研究授業を実施した。「未来の学校」を見据えたICTの活用や「対話的な学び」に力を入れたグループ活動の工夫を実践した。

「指導案検討・プレ授業」を経て、よりよい授業づくりに向けて内容を精査して取り

組むことができた。また、「プレ授業」を多くの先生方が参観し、フィードバックすることで、教員全体を巻き込んだ校内研究を実施することができた。



【第2回】

1年生の理科、特別支援学級での研究授業を実施した。

特別支援学級では「自立活動」の授業を行った。「未来の学校」に向けて、ボードゲームなども取り入れながら目標を達成していく授業を行った。「対話的な学び」に向けて生徒同士が話し合ったり、協力したりすることが必要になる授業を行った。特別支援学級の授業を20人ほどの教員が参観し、どんな目標に向かって、どのような活動をしているのかを知るよい機会となった。



提案授業後には、グループで協議を行ったり、講師の先生から助言をもらったりと、提案授業を通して教員全体の授業のレベルアップに力を入れた。特に講師の先生からは提案授業を踏まえて、東中「未来の学校」ビジョンや本校が目指す「ともに学び ともに輝く学校」に向けてどのような取り組みや授業を展開していくべきなのかなどのお話をさせていただき、その後の授業や学校生活につなげることができた。

他にも「ミニ校内研」の時間を設けて、本校の教員に講師を依頼し、教員全体に話をしてもらった。5月には「不登校生徒への対応、保護者との連携」の話を、9月には「教員の失敗談から学べること、活かせること」の話をしてもらった。教員同士の学び合いの時間になったとともに、普段の生活の中で抱えている悩みや相談事なども解消することができた時間となった。

3 実践の成果と課題

今年度の活動テーマである「対話的な学び」に力をいれたことで、教科の特性に関わらず、どの教科でも実施しやすい環境を整えることができた。

また、「指導案検討・プレ授業」を実施することで、提案授業を行った教員はもちろん、校内研推進委員を含めたその他の教員もその授業や教科について学びを深めることができたのは、この先に生きることであった。

研究会全体を通して、講師の先生をはじめとして、たくさんの指導主事の方に授業を参観していただいたこと、全体会にも参加し、一緒になって授業について振り返った時間は今後につながる大きな財産となった。

生徒は対話的な授業を通してクラスの仲間と意見を交換し、学び合いをすることはもちろん、自分を認めてもらえていることを感じている様子であった。それ以前に、対話的な授業を展開することで生徒が生き生きとし、授業に主体的に取り組む様子が見られたのも大きな収穫であった。

課題としては、対話的な授業の先の「深い学び」につなげられていたのかという点である。授業が活発になり、充実した時間になっているのは間違いないが、学びが深まったり、新たな考えに気付いたりすることができたのかという点については疑問が残る。来年度以降に活かしていきたい。



4 今後の展開

今年度の研究、東中「未来の学校」ビジョンは授業を中心に行ってきた。しかし、学校教育目標の達成にも、「未来の学校」の実現にも、授業の面だけでは難しい。

そのため、来年度からはこれまでの授業研究に加えて「学級経営・学校行事」の面からも目標の達成を目指し、それぞれの教員が研究テーマを設定し、研究を実施していく。多くの教員の挑戦と努力の積み重ねの先に目標達成があることに期待し、研究を学校全体でさらに充実させていきたい。